

東北地方での標識調査に関する今後の課題

1 今回の大会は東北地方で開催された最初のものであり、東北地方のバンダー自身がお互いの活動を知るうえでも有益であった。現在、東北六県では太平洋側の青森、岩手、宮城県での放鳥数が比較的多いのに比べ、福島県および日本海側の秋田、山形県の放鳥数が少ない。今後はこれらの地域においても調査が行われるよう、バンダー相互の繋がりを深めるとともに、野鳥にかかわる多くの人々に標識調査の意義をHPなどでさらに紹介するなどして、調査体制を充実させていく必要がある。

2 東北地方の標識調査の特色として、青森県蕪島や宮城県足島、岩手県三貫島などで長期にわたり継続されている海鳥の調査が挙げられる。これらは全国的に見ても調査数が少なく意義深いものと言え、さらに継続されていく事が望まれる。

小鳥類の調査も盛んだが、網場の設定が容易であるためか、その多くは河川敷や河口などに広がるヨシ原で行われている。今後は山地や林といった環境についても、調査に適した場所を積極的に探すなどして取り組んでいくことが望ましいと考えられる。